

学校法人イーエスピー学園

専門学校E S Pエンタテインメント東京

2022年度 自己評価報告書

評価基準日 2023年 3月 31日

評価対象期間 自：2022年4月 1日

至：2023年3月31日

評価項目

1. 学校の教育目標
2. 本年度に定めた重点目標や計画
3. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1) . 教育理念・目的・育成人材像
 - (2) . 学校運営
 - (3) . 教育活動
 - (4) . 学修成果
 - (5) . 学生支援
 - (6) . 教育環境
 - (7) . 学生の受入れ募集
 - (8) . 財務
 - (9) . 法令等の遵守
 - (10) . 社会貢献・地域貢献
4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果



○自己評価委員会 構成

- ・委員長 村本 英之（総務部長）
- ・委員 土屋 匡弘（教務部長、兼音楽アーティスト科責任者）
亀田 秀幸（経理部アドバイザー）
袖嶋 浩之（学生支援課 課長）
眞田 清嗣（総務課）

1. 学校の教育目標

【建学の精神】

音楽・楽器を創造することを通じて豊かな人格を形成し、さらに自己の可能性を追求する人材の育成。

【教育の理念】

建学の精神に基づき、エンタテインメントに関する高度かつ最新の知識や技術を修得し、感動を創造できる人材の育成に力を注ぐ。

【目的】

当学園は、学校教育法及び本学園の教育理念に基づき、エンタテインメントに関する知識や技術を授け、人格の涵養のもと、個性と可能性を大きく伸ばした人材を育成することを以って、文化の向上と社会の発展に貢献することを目的とする。

【育成人材像】

感動を創造できる人材を育成する。それは以下のような人材像である。

1. 好奇心を持ち続け、常に課題（テーマ）を見つけ、解決することができる人材
2. 初心を忘れず、常に目標（夢）を持ち、達成し続ける人材。
3. コミュニケーションをとり、仲間と仕事をやり遂げることができる人材。

【運営方針】

- ・教育の理念に基づき、講師、設備、カリキュラム等、教育環境の充実を図る。
- ・学生との緊密な関係を築いていくために最大限の支援体制を構築する。

2. 本年度に定めた重点目標や計画

- ①アフターコロナのエンタメ業界の動向を見極める。
- ②教務の強化
- ③退学者の軽減（進級率、及び卒業率90%を目標とする。）
- ④教務課と広報課の連動強化

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) .教育理念・目的・育成人材像

評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1 - 1	理念・目的・育成人材像は定められているか	✓			
建学の精神や本学園の理念に沿った目的、育成人材像は前述の「1. 学校の教育目標」に記載の通り定めており、建学の精神と教育の理念はホームページやパンフレット等に明示している。					
1 - 2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	✓			
当校の講師は現役の業界人で構成されており、授業計画はその講師の意見も反映して作成されている。また教育課程編成委員会による外部のご意見、設立母体である(株)イー・エス・ピー、及びキャリアサポートセクションからの情報等を取り入れていることから、適合していると判断する。しかし、最近はニーズにも少々変化があるとの情報もあり、最新情報の把握、適合に努める。					
1 - 3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	✓			
エンタテインメント業界への人材輩出を使命とする本校は学科・コース全体がエンタテインメント業界の縮図でもある。業界のニーズに対応するため、7学科26コースを用意しており、選択授業によって個々の希望にも対応している。					
1 - 4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか			✓	
業界のニーズは、今までは最低限の知識・技能に加え、コミュニケーション能力や元気、やる気といったものを備えている者を、入社後に会社で教育していくというものであったが、最近では現場での対応力として普遍的な能力（業界マナー、関係部署に関する知識、P C関連等）に加えて、専門的な知識・技能を持った人材が求められる傾向にある。 また、コロナ禍では特にP C、映像、編集、配信等に関する技能が求められていたが、それらに対応する施設、設備を整備することが難しく、十分とはいえない状況であった。しかし年度末に向けてコロナ禍も明け始めたと言える状況になりつつあり、再び現場の需要が高まることが予想されるため、今まで通り現場で活躍できる人材育成に力を注いでいる。					
		評価者	土屋 匡弘		

(2) . 学校運営

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
2 - 5	理念等に沿った運営方針を定めているか	✓			
1. 学校の教育目標の下部に記載の通り運営方針を定めており、本法人の理念や目的に沿った方針であると認識している。					
2 - 6	理念等を達成するための事業計画を定めているか		✓		
予算も含めた年度毎の計画がたてられ実施されているが、中長期計画については検討されていない。引き続き中長期計画検討の必要はあるが、むしろ社会の需要に適切に対応できる柔軟性が求められており、業界とも迅速に連動可能な部署を設置する。（学生支援課他、企画広報課イベント担当チームなど）					
2 - 7	設置法人は組織運営を適切に行っているか	✓			
理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催され、必要な審議を行い、議事録を作成、格納している。					
2 - 8	学校運営のための組織を整備しているか	✓			
組織規程、組織図、及び業務分掌規程を整備し、各部署の役割を明確にして運営を行っている。また、各種規程を整備し必要に応じた会議、委員会を実施し、議事録を作成、格納している。					
2 - 9	人事・給与に関する制度を整備しているか		✓		
教職員選考・採用規程を整備・明確にし、運用している。昇任・昇給の基準、及び人事考課制度を規程等で明確にはしていないが、年3回の人事考課を実施する際に業績や業務内容、業務に取り組む姿勢等に応じて評価、及びフィードバックを行っている。					
2 - 10	意思決定システムを整備しているか	✓			
定期的に開催される上層部の会議で意思決定が成されており、決議事項は各部署、及び各学科運営に必要なレポートラインを明確にすることで共有されている。					
2 - 11	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	✓			
infoClipperという学籍管理システムを導入しており、基本的なシステム構築は完了している。業務の効率化につながるようなシステムにはなっているが、2022年から新しいシステムに切り替わったことにより使用に慣れておらず、徐々に改善するものと思われる。					
		評価者	土屋 匡弘		

(3) . 教育活動

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
3 - 12	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	✓			
教育課程編成委員会規程を整備し実施する事でエンタテインメント業界の最新の動向等の把握に努め、その為の知識や技術を習得できるよう図っている。尚、当該規程内に方針を明示している。					
3 - 13	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	✓			
各学科のシラバスに到達目標を明示している。また、資格取得を目指す学科においては当該資格取得者を教員とする等、支援体制の整備を行っている。					
3 - 14	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか		✓		
教育課程編成委員会規程に教育課程編成に関する事項を明示されており、現行の教育課程は本校の目的に沿ったものだとして認識している。但し、教育課程の編成過程に関する資料（議事録等）が作成されておらず、規程の運用等更なる改善が必要である。					
3 - 15	教育課程について外部の意見を反映しているか	✓			
教育課程編成委員会やキャリアサポートセクションを通じた募集企業の人事担当者からのご意見等を参考に学科内で検討し、必要なものは反映している。					
3 - 16	キャリア教育を実施しているか	✓			
特に本校においてキャリア教育に関する文書は無いが、当学園の理念や本校の目的や運営方針がキャリア教育を行う為のものとなっており、設備やライブ研修等キャリア教育に相応しい内容であると認識している。					
3 - 17	授業評価を実施しているか			✓	
学生へ実施するアンケートや個別面談を行い、学生の理解度を確認することによって評価を行っている。業務委託の外部講師へのフィードバックが現状できていない為、今後行う予定である。					
3 - 18	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか		✓		
学則には「詳細は別に定める」と記載しており、別とはシラバスに記載の評価方法に明示している。シラバスは本校ホームページに公表している為、学生への明示もされていると認識している。但し、学科や担当講師によって運用が異なることがあり、統一性については課題が残る。					

(3) . 教育活動の続き

評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
3 - 19	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	✓			
年度末における学内のコンテスト、当学園主催のイベント出演はもちろんのこと、外部オーディションの状況等は常に情報収集を行い、把握に努めている。					
3 - 20	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	✓			
資格や免許取得が可能な科目についてはシラバス上で目標を明示している。また、資格取得に向けた特別講座についても実施している。					
3 - 21	資格・免許取得の指導体制はあるか	✓			
資格取得が可能な科目については授業内、または特別講座において指導しており、体制として整備されていると認識している。					
3 - 22	資格・要件を備えた教員を確保しているか	✓			
エンタメ業界で活躍されている人を、学校教育法上の欠格事由、並びに東京都暴力団排除条例等（反社排除）に定義される規制対象者に該当しないこと、及び専修学校設置基準に定められている要件を満たしているか確認し、教職員選考・採用規程に従い面接等所定の審査を行って確保している。					
3 - 23	教員の資質向上への取組を行っているか			✓	
基本的に業界で活動している者を教員として採用しているが、教育の質を向上するために指導方法や学生との接し方について講師、及び教職員間で定期的に共有している。しかし、業界実績のある方に講師を依頼している点で、外部講師への研修実施は困難であり、現状は出来る範囲での対応に留まっている。					
3 - 24	教員の組織体制を整備しているか	✓			
各科、コースに主任を配置し、レポートラインも明確にすることで、組織体制維持や業務に必要な通達、及び情報も即時伝達できる体制を整備している。					
		評価者	土屋 匡弘		

(4) . 学修成果

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
4 - 25	就職率の向上が図られているか	✓			
キャリアサポートセクション（ＣＳＳ）という学生就職支援部署を設置し、学生の就職サポートを行っている。ＣＳＳでは、企業へのアプローチ、求人依頼、企業説明会企画等を行っており、学生に対しては就職講義の他、個別相談対応、履歴書添削や面接練習などを行っている。 卒業時に卒業生全員に対して進路調査を行っており、データ把握に努めている。					
4 - 26	資格取得率の向上が図られているか	✓			
在学期間中に資格取得のための筆記、及び実技対策講座を各科各コースにおいて適宜実施している。また、有資格者を教員として配置する等前述の対策講座以外にも通常授業内でも充実を図っている。					
4 - 27	卒業生の社会的評価を把握しているか		✓		
学生支援課において業界、企業との接点を多く持ち、各所で活躍する卒業生たちの動向把握、評価情報の収集を行うことによってその評価を確認している。					
		評価者	袖嶋 浩之		

(5) . 学生支援

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
5 - 28	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	✓			
学生支援課内に専門部署となるデビューサポートセクション(音楽・芸能活動支援部署)、キャリアサポートセクション(就職支援部署)を設け、進路に関するサポート体制を構築している。またこれらは常に学科教務と連携して学生指導にあたっている。 前述の通りの就職指導、及びオーディション等の情報管理、主催オーディション運営、各種サポートを行えるよう体制整備を行っている。					
5 - 29	退学率の低減が図られているか		✓		
進級、及び卒業に必要な出席率を下回った学生から優先的に個別面談を実施している。保護者へも必要に応じて連絡をすることで、家庭内からも就学に向けて協力を促している。学習面において出席率や成績により補講を実施しているが、心理面でのケアが中々難しく、外部のカウンセラーか、精神科受診に任せてる。					
5 - 30	学生相談に関する体制を整備しているか	✓			
各学科教務、また学生支援課では、定期に個別面談を行う他、何か相談の申し出があった際にはその都度個別相談に応じる体制を敷いている。また、専任のカウンセラーへ業務委託しており、毎週木曜日に相談室を開催しており、掲示板等での告知で案内している。 但し、気軽な相談というものであり、相談内容を記録するという契約にはなっていない。 また、深刻な内容のものの場合には専門家の対応や専門の病院への案内をする場合もある。 ZOOMを使用したオンラインにも対応しており、現状では十分な対応が出来ていると認識している。					
5 - 31	留学生に対する相談体制を整備しているか	✓			
学生支援課内にインターナショナルコミュニティセンター（ＩＣＣ）を設置し、入学前～在学時～卒業後も、常時どのような相談も受けつけており、専任の職員が個別に対応を行う体制を作っている。					
5 - 32	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	✓			
学校独自の奨学金制度としてイーエスピー学園卒業生・在校生兄弟姉妹特別奨学生という制度と、E S P 学園特待生奨学金制度を整備している。 さらに現状で年間２期での分納が認められているが、やむを得ない場合（ローン等申込が不承認等）に更なる分割も条件付き特例で認める場合がある。 条件付き特例で認める分割以外についてはホームページ、掲示板等で告知し、経済面での質問は専任の職員によって一括管理されている。 また、修学支援新制度の対象校として確認されており、給付奨学金、授業料等減免が受けられる体制となっている。					

(5) . 学生支援の続き

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
5 - 33	学生の健康管理を行う体制を整備しているか		✓		
保健計画を定め、日常の健康管理は講義内でも社会人としての健康管理として触れて、指導している。 常設の保健室を整備し、利用可能なスペースは確保してあるが、専門職員の配置はしていない。また、学校医として外部医院の医師を選任し、委託している。					
5 - 34	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	✓			
学園、学校として学生寮の設置自体はしていないが、学生寮等の運営をしている複数の会社と提携し、整備されている状態としている。					
5 - 35	課外活動に対する支援体制を整備しているか	✓			
クラブ活動には必ず教職員が顧問となり、活動状況の把握に努めている。また、発表会等も行っており、随時教職員が引率し、管理している。 また、学外での活動サポートとして、学外のライブハウスを定期的に借りてライブイベントを企画・開催し、その際に発生したチケット代は参加バンドへ100%還元している。					
5 - 36	保護者との連携体制を構築しているか			✓	
保護者会等は組織していないが、教育活動に関する情報は期末に行われる試験の個別成績発送の際に共有し、保護者と連携した指導を行う。また、保護者の方が直接来校された際には学科責任者及びそれに準ずる者が対応している。 緊急時には情報管理システムに登録されている情報から保護者の方へ個別に連絡する。					
5 - 37	卒業生への支援体制を整備しているか	✓			
卒業後もデビューサポートセクション(音楽・芸能活動支援部署)、キャリアサポートセクション(就職支援部署)の利用が可能で、転職のサポートや新たな活動の場となるオーディション情報の提供など、在学生同様に支援する体制を敷いている。 また、卒業後もデビュー情報の提供を希望する人は、事前にデビューサポートセクションに登録することで、デビュー（オーディション）情報をメルマガ配信している。					
5 - 38	産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか				✓
エンタテインメント業界では入社後に会社内で教育していく事が常態であり、業界からの意見では「早く現場に出た方が良い」というものが多く、業界として産学連携での再教育というものが求められていないという認識。また、授業等での使用、及び空き教室はレンタルスタジオとして使用する事での在校生の教育環境の充実を優先することでのハード面の難しさから、現状では本取り組みに関しては見合わせる方針である。					

(5) . 学生支援の続き

5 - 39	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか				✓
社会人経験者の入学は問題ないが、働きながら履修できる体制は取っておらず、社会人学生や、聴講生が入学できる体制を整備していない。 また、本校で以前に社会人や就学前の人を対象とした付帯事業を行っていたが、利用者が少なく、社会人のニーズが無いものと判断し、現在では募集停止状態となっている。					
		評価者	袖嶋 浩之		

(6) . 教育環境

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
6 - 40	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか		✓		
各学科、各コースにおける必要な設備等は整備されており、関係法令上の基準に適合し、充実していると認識。また、卒業生にもデビューサポートセクション、キャリアサポートセクション等の施設利用を可能としている。 但し、卒業生のアンケートから、学内のPCの不具合などの声もあり、今後の改善に努める。					
6 - 41	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		✓		
取引企業からいただく学外実習、インターンは大切な学生経験の一部と位置付け、積極的な参加を促している。その他企業見学、会社訪問、また海外姉妹校への研修制度なども実施している。 但し、教育課程上の位置付けを明確にすることが難しく、参加後のレポート提出等で授業への出席扱いとしている。					
6 - 42	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか				✓
各校舎等も耐震化に対応済みであり、消防設備の保守点検を法令に基づき行っている。防災計画、及び関連マニュアルの整備はされているが古く、またリーガルチェックを経ていないものもあり、正式版の作成を行っている。教職員及び学生への周知は正式版完成後に行う予定。					
6 - 43	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか			✓	
学校安全計画を保健計画と並行して策定（学校保健・安全管理マニュアル）しており、運用している。 また、防犯マニュアルを策定しており、教職員への周知徹底が必要である。校安全計画、及び関連マニュアルは整備してはいるが、リーガルチェックを経ていないものもあり、正式版の作成を行っている。教職員及び学生への周知は正式版完成後に行う予定。 衛生管理者による巡回、指導を行い、安全管理に対する対策と意識付けを行っているが、組織体制としてはまだ改善の余地がある。					
		評価者	眞田 清嗣		

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
7 - 44	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	✓			
高等学校等の進路説明会に可能な限り参加し、教育活動等の情報提供を定期的に行っている。また軽音連盟とも連携しており、イベントの際には協力し、その際に情報提供を行っている。					
7 - 45	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか		✓		
本校においては4月入学のみであり、それに向けた願書受付としてAO入試、推薦入試、一般入試を実施しており、各入試の実施時期は東専各からの通達に則して行っている。学生募集活動の重要な位置付けとなるオープンキャンパスに関して、開催回数の効果的な設定、体験授業、学校説明会の内容を充実させることを常に検証し改善を行っている。					
7 - 46	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	✓			
入学選考基準、方法は学則に明記されており、募集要項、本校ホームページにて明確化している。 上記の情報に沿って運用している。					
7 - 47	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	✓			
合格率、辞退率のデータは毎年蓄積し、管理されている。 入学者の人数を把握し、それを元に教室割りなどの授業の方法等を適宜検討し実施している。					
7 - 48	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	✓			
学納金の算定内容、決定過程は明確にし、学則変更、及び学納金変更申請時に提出している。 学校パンフレット、募集要項、ホームページ等に学納金等徴収する金額は明記している。 また、学納金の水準は適宜把握に努めている。					
7 - 49	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	✓			
入学辞退者に対して、年度開始前までにその意思を示した場合には、入学金を除く学費を返金する旨を募集要項、及び入学金等納入のご案内にて周知している。					
		評価者	村本 英之		

(8) . 財務

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
8 - 50	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	✓			
自己資金で設備投資を行うなど、過去3年間の財務基盤は安定している。					
8 - 51	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	✓			
人件費率比率、教育研究費比率私学共済が公表する私立専修学校の平均値と比較しても適切なものであると認識している。また、経常収支の差額もプラスで推移している。					
8 - 52	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	✓			
各部署から当該年度の予算を提出し、それらを精査する段階で事業計画との整合性を図り、編成したものを評議員会の諮問を経て、理事会の承認を取っている。					
8 - 53	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	✓			
事業計画の予算に対して、決算で大きな乖離は生じていない。予算執行にあたっては上申書、立案書などを理事長が最終承認を行う体制を執っている。					
8 - 54	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実行しているか	✓			
監事による監査を実施し、理事会において報告が行われている。					
8 - 55	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	✓			
財務情報を当学園ホームページに公開を行っている。					
		評価者	亀田 秀幸		

(9) . 法令等の遵守

評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
9 - 56	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	✓			
学則改正は適宜所轄庁へ届出を行っており、都から承認されている寄附行為に則して理事会・評議員会を開催、実施して学校運営を行っている。各種規程、及びマニュアル等を法令に則した形で整備し適切に運用している事で、高等教育の修学支援新制度の対象機関として認められている。					
9 - 57	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	✓			
個人情報の保護に関する法律に則して個人情報保護規程を整備し、適切に運用している。また、管理システムは通常のインターネットからは隔離したネットワークを構築し、外部からのアクセス等に備えた危機管理を行っている。					
9 - 58	自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか	✓			
本校の学則に明記して学校評価実施規程を整備し、実施にあたっては当該規定に則り各科、各部門担当者や評価委員で自己評価を行い、委員全員で精査している。					
9 - 59	自己評価結果を公表しているか	✓			
評価結果については本報告書の通り取りまとめており、本報告書については本校ホームページの情報公開ページで公表している。					
9 - 60	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	✓			
自己評価と同様に本校学則に明記して学校評価実施規程を整備し、関連業界や地元企業関係者、接続する学校の教職員、及び保護者等から委員にご就任いただき、学校関係者評価委員会を毎年度実施している。					
9 - 61	学校関係者評価結果を公表しているか	✓			
評価結果については委員の皆様からのご意見を取りまとめて報告書を作成し、報告書については本校ホームページの情報公開ページで公表している。					
9 - 62	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	✓			
ホームページ、パンフレット等によって公開されている。 また、設立母体である(株)E S Pの関連店舗等に資料の配置を依頼し、閲覧の機会増加に努めている。					
		評価者	眞田 清嗣		

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
10 - 63	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか			✓	
町内会等の地域イベントに協力しており、エンタメ業界や卒業生から施設利用の依頼があった場合には、授業に影響が無い限りで前向きに検討する方針としている。 さらに、時折全国の学校や近隣の学校、及び学生の母校等へ訪問楽器メンテナンスを行っており、簡単なお手入れの講習や本格的なリペアを行っている。 ただし、地域イベントへの協力は一部の職員、学生に留まっており、高校主催イベントへの協力、楽器修理サポートなどそれぞれ年0回～数回に留まり、実施数は少なく、教育資源を活用しているとは言い難い。 ただし、授業の一環としてではあるが、管楽器リペア科において管楽器の点検修理を行い、これを寄贈する活動へ協力している。 今後、上記以外でどのような形で活用していくか検討を要する。					
10 - 64	国際交流に取り組んでいるか		✓		
ハリウッドにある姉妹校との海外研修プログラムを整備している。 また、I C Cでは留学生に対して、授業や学科を超えたコミュニケーションの場の提供や、外部の国際交流イベントの参加案内などを行っているが、実施数は少ない。					
10 - 65	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか				✓
特に学校として奨励することはしていないが、学校に届く募集情報の公開は行っている。 尚、規程や規則等に明記はしていないが、学生個々より活動の申し出のあった際には、授業の調整や公欠等の活動支援を検討する体制はある。					
		評価者	袖嶋 浩之		

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1. 学校の教育目標に対して

エンタテインメント業界の仕事は細分化が進んでおり、業界のニーズとしてその分野のスペシャリストであり、かつ現場での対応力をもった一定水準のジェネラリストでもある人材が求められている。そんな音楽業界からのニーズに対応するために、即戦力となりうる人材の輩出、及び業界をリードできる人材の育成に力を注いでいる。

また画一的な人材輩出とならないよう、学生の希望に沿い、かつ個性を活かすために選択授業をカリキュラムに備えている。

入学適齢人口は年々減少し、同系学校間に関わらず大学とも競合する時代となっていることから、今後は学生確保の意味からも時代に即応したカリキュラムや、新しい学習システムの導入などに努めることが大切と考えており、本学園の教育の理念や目的は業界のニーズに沿っているものと認識している。

但し、育成人材像についてはコロナ禍が明けてからの状況変化を見極め、適宜検討していきたい。

2. 本年度に定めた重点目標や計画に対して

前年度後半には引き続きコロナウイルスに対する警戒感も残り、イベント会場への入場制限も実施する中で、いまひとつ学園の持ち味である現場における体験が足踏み状態となった。第四四半期にはようやくコロナ禍も落ち着きをみせたが、教務スタッフの相次ぐ退職により、教務の強化を図ることが困難となった。退学者については、前年度4校総在籍者数936人中、退学者総数は119人（退学率12.7%）であり、目標としていた進級率、及び卒業率90%にはやや届かなかった。教務課と広報課の連動については、広報課の学科担当者を配置し、各科の特徴や特色に合わせた展開を個別に話し合う体制を強化することができた。

3. その他、総括

ここ数年のエンタテインメント業界の変化（ライブのあり方、楽曲制作のあり方、発信配信のあり方等）は目まぐるしいものがあり、基礎構築を求められる学校であっても普遍的なコンテンツに加えて、これらの変化に応じた教育をどこまで提供できるかが大きなカギとなります。これらをベースにした教育理念、目的、育成人材像、運営方針に着手できているかと言えばまだまだできておらず、早急に更新する必要性を強く感じるきっかけとなった自己評価でした。

5. 来年度重点目標・計画

1. 現場主義に即したイベント研修、外部イベント研修等への参加体制強化

2. 進級率・卒業率を向上させるための学生サポート体制強化

3. 円滑な授業運営の土台となる実習室、教室の環境整備

以上